

「2018年度第3四半期決算」テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

1. 第3四半期の営業利益は想定に対してどうだったのか？

- ・ 第3四半期の営業利益は、残念ながら今回は北米のプロセスプラント案件で想定以上に追加コストを計上してしまったので、その部分は下振れしてしまったという認識である。
- ・ その他の事業は、計画ラインに乗っているか、若干上回っているという評価をしている。

2. 北米で進行中のプロセスプラント案件は、第3四半期でコストを計上しているのか？

- ・ 資源・エネルギー・環境事業の通期営業利益見通しの当初見通しからの増減要因のうち、北米プロセスプラント案件の追加コストが▲60億円。
- ・ 実際の追加コストでお客さま責のところは増額交渉の作業にいよいよ入ってきた。整理できた部分から随時リクエストを行なっている。全額回収できるかという点と確定ではない。請負金の増額に注力していく。

3. 資源・エネルギー・環境事業の通期の受注見通しは、ボイラが前回からだいぶ下げているが、下げた理由は何か？

- ・ 受注時期のずれという評価をしている。海外向けの大型ボイラの受注で、今年度末を想定していたが、お客さまの事情で来年度に延びている大きな案件がある。
- ・ 資源・エネルギー・環境事業の通期の受注見通しは、原子力を除いて当初想定していた計画を下回っている。

4. ターボチャージャー事業について、中国市場における状況は？

- ・ 中国市場は、売れている車と売れていない車で二極化しているようで、当社が販売しているターボチャージャーは比較的堅調である。

5. 航空・宇宙・防衛事業の通期営業利益見通しの当初見通しからの増減要因のうち、工事採算の変動の▲30億円の内容は何か？来年度の航空・宇宙・防衛事業の営業利益の方向感はどうか？

- ・ ▲30億円の主たるところは、素材の調達価格の値上がりがコストアップ要因になっている影響が大きい。今年度の新型エンジンPW1100G-JMの販売台数の見通しは変えていない。
- ・ 来年度の数値はまだ策定中で詳しくは言えないが、期初には今年度が底と話していたのが、この底が続く可能性があるという状況は変わっていない。

6. 今回、リスクバッファの110億円を全額取り崩したが、その考え方は？

- ・ 今年度のリスクバッファは従来と性質が違っていると話していた。今年度の通期営業利益見通しは、グループ経営方針2016の掲げている目標を達成すべく改善を織り込んだ数字を作成したので、それが未達になるリスクを織り込んだものだと話していた。見込んでいた改善活動は概ね順調に進捗している。もう少し高いレベルの利益を達成しなかったのだが、北米プロセスプラントの工事で追加コストが発生したので、その部分を織り込んで全額取り崩した。

以上